# 平新報

發行日　十日發行
毎月一回
編輯兼發行印刷人
山野辺庄吉
福島縣石城郡小名浜町大字岩出字向二八
發行所　平新報社
一部　定価拾円
送料当分の内八円
広告料研討中

## 再刊に對する反響

### 鐵脚縱横と其の印象

本紙再刊して一ヶ月、農事繁多にして本号に報ずべき材料をとり得なかつたが再刊第一号は平市、本郡一円、官公署殊に警察駐在所各郵便局長にもれなく（公私世話になる意味で）贈呈郵送した。前号に公告して居つた通り前号に限り無料で讀んでもらふ意味で、又再刊の挨拶状の心算であつた。處が左の人々から返送された。

一、川前郵便局長（受取拒絶）

一、豊間町沼ノ内漁街一八二沼ノ内漁業協同組合組合長大平多十郎

一、川部村長鈴木長治

前二者は一旦見ての上返送した様である。

一、齋藤晃氏夕マノ夫人に路上で逢つたら御目出度うと御挨拶された、筆者は何んの事ですかと失禮だが反問したら『平新報御再刊されまして』と筆者の心中意外でもあつたし嬉しかつた字内は勿論、逢ふ人ごとに御禮を言はれて居る。

一、近親其の他から懇篤な禮状もあり、長子泰秀が再刊に對し最善の協力をして異れる事は何よりも嬉しい文章があまり漢文式で讀みにくい相だ。どうも昔とつた筆で今の若い人にはむかないかも知れぬ。漢字制限もあるが、地名や人名は何んとも術がない。其處は判讀して欲しい。

一、三猿文庫主諸橋元三郎氏からは再刊をすゝめられた事あつたと記憶して居る處が最近、大反對であり…かゝるが故に無理解な援助をうけ様とも思つて居らぬ世人誤解のない様に御願ひしたいものだ。

一、小名濱町比佐政種氏は筆者の小學校の同級生でもあるので、この頃二三回逢つて居るから氏を訪問した處が意外だつた『新聞記者は嫌いだ』と云々と、印象の良いものではなかつた。是れ又理解のない援助はうけられぬから當方から御斷りする。

一、小名濱町長水野政次郎氏も、だまつて居てはと、私考し訪問した。處が公選町長は何とした事か、あがれとも言はず上り口に腰しかけらせての應待だ、この人、エチケットあるのか、實際不愉快極まるもので、人は反對の立場から考へされる事がある。筆者は先の町長樋口運氏を自宅に迎へた事あるが、玄關で應待はしなかつた。訪問した序でだから、玉協と小名協の合併問題にも論及したが何ら要領を得なかつた。

一、湯本町長松木久吉氏を湯本内郷新聞社長としてこれ又だまつて居られぬと思ひ、役場に訪問した事がある。處が受附氏曰く町長室へ行つて、出かけて居らぬ助役さんはと助役も居らぬ收入役も居らぬと、いやはや日曜でもないのに湯本役場には三役が空にして居ると見える。

一、筆者はウソはかゝぬ、放言する事も嫌いだ。言ふべき事は言へたい、かきたい事は法の許す範圍でかく與論にものがはさまつた様な、又言ふだけの事を言はずば腹がふくれる畏れがあつて病氣にかゝる、これ又畏れがある何々

×　×　×

▼江名町沼田春吉氏より

祝　平新報再刊

石城の言論界に清貫の氣を注ぐべく御健筆を祈上候

▼茨城縣高萩局區内松岡町齋田隆次氏より

再刊平新報ありがたく拜受いたしました。社會事業として御貢献の程いのり上げます、再刊宿望を達せられ欣快の程御察し申上げます、先は御喜こび迄早々

たてなほす、心てしもえて、新ゐみの、またよに出し、ゆく先を祝ふ

▼平市吉田庄太郎氏より

前略山野邊平新報社長足下貴紙の再刊を祝し、破邪顯正の論說を堂々と掲載する。貴紙に共鳴し混頓たる政界に一針を加へ痲痺せる日本精神に一注をそゝがのみ。

大日本人に告ぐ、勤王學社長としての論說は内閣の主班も決まり時効にかゝりましたので掲載致しませぬ。

前号で御斷りの通り本紙は當分の内月一回毎月十日が發行日です。其の間御判察の上御寄稿下さい（眞立）

祝　平新報再刊

平市才槌小路二四

辯護士　山野邊義政

法律事務所

## 高野山管長大僧正猊下親修

## 大供養會回向

### 遍照院は二十日午前九時

住吉遍照院外數寺は今回高野山派に本家歸りをして智山派を離れたが、これを期して、高野山眞言宗管長金剛峯寺座主大僧正庄野琳眞猊下、高野山關東別院主鑑宗議權大僧正山本芳邃師總本山時派布教師權大僧正吉本道堅師、高野山金剛別講關東總監金剛流詠匠山本周道師、各僧が親教されて大供養會を執行する。

▼十一月十九日午後一時　江名町方部、江名眞福寺

▼十一月二十日午前九時、鹿島村並富岡方部、金光寺正福院、東教院、住吉遍照院

▼十一月二十日午後一時　小名濱町方部、小名濱町修生院、冷泉寺

## 飯島兵司翁

### 大臣賞を受く

保險事務優秀で平市舊城跡杉平、木材協組健康保險事務擔當者、飯島兵司さん(六〇)は健康保險法並びに厚生年金法施行記念に本縣から只一人、厚生大臣賞を贈られた。飯島氏は九月にも、福島勞基局長賞を受けて居る。

## 皇太子殿下

### 立太子の禮と御成年式

皇太子さまの立太子の禮と御成年式は、本十日、新憲法下初の國儀として、新裝の假宮殿表北の間で行われる。

## 第四次吉田内閣成る!!

第四次吉田内閣は去月三十日認證式を經て成立した

| | | |
|---|---|---|
| 總理 | 衆 | 吉田茂 |
| 外務 | 〃 | 岡崎勝男 |
| 法務 | 〃 | 犬養健 |
| 大藏 | 〃 | 向井忠晴 |
| 文部 | 〃 | 岡野清豪 |
| 厚生 | 參 | 山縣勝見 |
| 農林 | 衆 | 小笠原三九郎 |
| 通産 | 〃 | 池田勇人 |
| 運輸 | 〃 | 石井光次郎 |
| 郵政 | 參 | 高瀨莊太郎 |
| 勞働 | 衆 | 戸塚九一郎 |
| 建設 | 〃 | 佐藤榮作 |
| 國務（保安廳長官） | | 木村篤太郎 |
| 國務（自治廳長官兼行政管理廳長官） | 衆 | 本多市郎 |
| 國務 | 參 | 林屋亀次郎 |
| 國務 | 〃 | 大野木秀次郎 |
| 國務兼内閣官房長官 | 衆 | 緒方竹虎 |

## 米大統領 アイゼンハウアー に決る

米國三十四代大統領はアイゼンハウアーに決る。（去る五日）兩候補の選擧人獲得數

アイゼンハウアー（共和）三二一名一五州
得票數三二、九六三、一九四

スティーヴンソン（民主）二五名二州
得票數一八、九五八、六九二

## 住吉出張所長 村上氏厚生課長に

### 後任丹野作平氏

小名濱町役場の職員の移動につれ、住吉出張所長たりし村上保一郎氏は同町厚生課長に轉じたが、その轉職を舊玉川村民から惜まれて居る。氏の住吉駐在は昭和二十二年四月五日から同二十七年九月十一日まで、其の間分村問題あり、筆致の精くし得ぬ幾多の難事件があり、氏の圓滿善處方針がものいふて今日の狀勢になつたものと評されて居る後任は町經濟課長たりし丹野作平氏。

洋拓殖専門學校出身、二八會友小泉恭平氏の實兒である。

## 不貞の妻へ抗議

### 愛兒二名を殺害

泉村瀬尻字松原下丸江運送店員杉山重助(三六)は愛兒二名を殺害、杉山の妻久子(三九)の情夫泉村玉露小名濱運送店員鈴木信雄(三三)は又暴行容疑で逮捕された事は新聞紙上をにぎはし、不倫の妻への死の抗議、常識では判斷出來得ぬ家庭悲劇中の悲劇であつて、批判の余地がない、法的にどう處斷されるかゞ問題である。

## 小名濱町土地改良

### —事業計畫の概要—

**第一章　目的**

小名濱町土地改良區は當町農業の經營を合理化し、その生産力を増强し、食糧その他農産物を増産するための土地改良事業を行ふものであつて、これによつて、農家經濟を豊かにし、農民生活の向上を圖るをもつて目的とする。施工せんとする事業は概ね左の通りである。

(一)農道の新設及び改修

當町耕地のうち二百數十町歩の水田と百余町歩の畑地には完全なる農道は殆んどなく畦畔な形ばかりにして人の通行すら困難を感ずるところ多く肥料、收穫物等の運搬に甚だ支障あるため農道を新設し、亦山地帶等に多くある屈曲せる小道を改修し、その維持をなすものである。

(二)用排水路の新設及び維持

本町の一部には低濕地ありこれが排水路なきため、反當收穫僅か二俵に滿たざる水田尠なからず、一昨年一部に農道排水を新設したる結果附近の水田は乾田となり、二毛作可能となりたる實例あり、よつてこの低濕地の全部に排水路を新設し不良なるものを改修し亦鮫川水利幹線より分岐する支線を新設、改修せんとするものである。

(三)溜池の改修

本町の大部分は鮫川水利の恩惠を蒙りつゝあるのであるが、なお一部に溜池による耕地あり、老朽化して淺水し或は土砂推積し水量なきものを改修し水不足を解消せんとするものである。

(四)橋梁の新設

農道、排水の新設に伴ひこれらの農道に新たに橋梁を新設し、亦既設のものゝうち、木橋等のため腐朽したるもの及び狹隘にしてリヤカー、牛馬車の通行困難なるものを改修せんとするものである。

## 破邪顯正

◆去月二十日午後平市舊城跡堀江正茂氏の好意に依り平市ひかり座の映畫を觀たニユース續いて『思春期』男女共學と性教育の問題を主題としたもので、終戰後の日本の教育で男女共學が成功しているか…若い男、女學生に正しい性の智識を教えることゝいふ筋だつた觀衆は大半女學生で埋められ腰かけがないといふ立見だつたが、觀衆に場内で煙草をすつて居るものが一人も見なかつた事は、地方映畫館としては禁煙の徹底して居る事は愛煙家として寒心にあらず感心した。要は大人の悪い反面をみて子供達の心境の變化といふか童心にあらず、少年少女の氣持を否める實例が多々ある。

◆本月六日午前九時から小名濱の土地改良區設立準備打合會同町公民館であつた其の席に町長代理として助役長瀬國三郎氏が臨席したまるで古もまはらぬ酩酊振りだ、六日と言へば五日は教育委員の選擧と開票のあつた日だ、朝から祝酒にひたつて來たのだらふと誰れかが囁いて居つた。町議飯塚新四郎氏も赤い顏して入つて來た一体小名濱町の役附の人は公會の席へ殊に大事な問題を審議する公會の席に酒氣をあびて來るのは通例なのかも知れぬ。

## 岩並三郎氏永眠

平市白銀町四五岩並三郎氏は去月十八日永眠され、同二十日葬送された。故人は平市長諸橋久太郎氏らと當時磐中十一回卒業生で故桂太郎の經營して居つた東

祝　平新報再刊

福島縣平市四町目六番地
株式會社　關内藥舖
關内榮助

福島縣人會副會長
東京都民生委員
區立上高田PTA副會長
双葉パラフィン工業株式會社
株式會社双葉書房
代表取締役社長
計理士　法學士　佐川千代松
本社　東京都新宿區西落合二丁目四九五　電話落合(95)三三六四番三六一九番
自宅　東京都中野區上高田二丁目三八二　電話中野(38)二五五九番

# 磐崎村の教育者九十余名

## 教へうけしもの數万人

### 論語新解の著者故石川虎之助氏、英語の研究者小野圭次郎翁の現存するあり

磐崎村に生れ並びに本村を有する現教育者及び、退職死亡者合せて九十余名に及ぶが、現教育者五十七名退職者十六名、死亡者十八名であるが、此れ等の教師に學んだ者は數万人に及ぶ人々は今社會に活動し、又偉大なる名譽を殘して、あの草場の蔭げに行かれた名師もある事でせうが、反面不幸にして暮して居れる者又不幸にして、あの草場に行かれた者も少なくない。實社會ばまゝならぬもの、まづ現教育者では吉田廣佐氏は戰前の双葉中學校長から滿洲に渡り戰後引揚者と成り現在宇都宮中學校長の椅子に居られる。石城地方には好間第二小學校長の大越卓氏、勿來第三小學校長の高木愛治氏、三坂小學校長の根木清秀氏、石住小中學校長の高木百枝氏等五名の現役校長が出て居り、他の現教育者五十余名は今教壇に立つて居るが、退職組では當村下舟尾出身の小野圭次郎氏、白鳥出身現在平市城山に居られる篠山簾氏千葉右近氏、藤原出身現在錦町に居られる篠原保治氏（今般の教育委員に當選）篠原氏は元大井川保治である。瀧正熙氏は戰前湯本町小學校教員を退職、二十六年四月磐崎村議員と成り、今般當村議會より村の教育委員に互選され委員と成り他の退職者は農業並びに役場、學校に從事して居る。尚小野圭次郎（八三）氏は現在東京代々木に自邸を建てゝ居るが、同氏の生家は磐崎村下舟尾小野六郎氏宅である。明治十九年田村郡二瀬村栃山神小學校長をふり出しに、松山高商英語教諭を最後に退職、此の間約五十ケ年、退職後も教育をもつとうとして英語アクセント研究法を主として三十四種の本約九千ページを發行して日本國内のあらゆる書店に出て居り、尚郷里の磐崎小中學校の教育奬勵の爲めに十數年前から同氏の父故小野良意氏の名で良意賞として、辭書を毎年寄贈して居るが當校では此の良意賞を努力學生に授與して居る日本でも有名な小野圭次郎先生である。

死亡教師十八名中大半は各校の校長を歩んで退職し、中でも石川虎之助、吉田明德、關口英助、高槻忠致、大平啓助、鈴木道治、杉山勇馬の諸氏に學んだ人々は今尚御師の姿が思出される事でせう尚故石川虎之助氏は磐崎村西郷故大平啓助氏の實弟、現大平忠一郎氏のお伯父元大平虎之助氏であつて同氏小學生時代には現箱崎一郎氏宅地に安置されてある天神樣に教師に成る事を祈願し當神樣内を學習場に獨學して居た事今尚地元民から時々話が出て居る小學校を卒業後、現在湯本町關船吉田教和先生に學ぶ事三ケ年、獨學によつて元中等學校教諭と成り教員生活三十八ケ年、相馬元中學校漢文教諭を昭和九年三月退職後、論語新解約一千ページに及ぶ本を發行され、世にめつらしい獨學者で名高い。尚磐城高等學校教諭石川徐文氏の實父である。

現教育者及び退職死亡者現在學校現住所次の通り。

現教育者

吉田廣佐（宇都宮中學校長）大越卓（好間二小校長）高木愛治（勿來三校長）高木百枝（石住小中校長）根木清秀（三坂小校長）北郷進（湯本一小）高木ツルヨ（勿來中）佐藤千鶴子（上遠野小）矢内孝直（磐崎中）高木都子（勿來一小）齋藤セツ（磐崎中）橋本則子（石住小）遠藤ミヨ子（長倉小）大樂理四郎（藤原小）大井川勝代（磐崎中）北郷ヨシ子（藤原小）野木正夫（磐崎中）石川徐文（磐城高）齋藤孝三（湯本一小）野木惠美子（長倉小）吉田明彦（湯本高）大平武男（磐崎中）大平正夫（石城農高）吉田三郎（湯本二中）大平忠七郎（内郷高）志賀昭太郎（小名濱一中）御代貞興（湯本一中）鈴木君代（小名濱一小）石川尚（湯本一中）御代節（磐崎中）江幡政雄（磐崎中）太田原和枝（長倉小）植田信雄（藤原小）吉田明寛（小名濱一中）鷲尾スイ（湯本一小）大平金英（磐崎中）箱崎和雄（小名濱高）山田トキ（磐崎洋裁學園）御代勝夫（磐農高）三部孝子（長倉小）關東京子（同）枝野三郎（同）古内義昭（磐崎中）志賀忠彦（常磐中）粒來ミヤ（湯本二小）野木弘二（湯本二小）

退職者現在所

小野圭次郎（東京）篠山簾（平市）鈴木佐四郎（不明）江尻融（湯本町）大平忠一郎（磐崎村）鈴木朝世（不明）吉田幸平（磐崎村）千葉右近（平市社會課）土田克己（磐崎村）杉山保夫（同）稻沼タカ（同）玉村清美（同）

死亡者

吉田明德（磐崎村下湯長谷）芳賀義隆（同白鳥）杉山勇治（同西郷）杉山勇雄（同）杉山鑑吾（同）杉山勇馬（同）大平啓助（同）高槻忠致（同長孫）鈴木谷太（同岩ケ岡）志賀四郎（同長孫）關口英助（同馬玉）中野文六（同下船尾）石川虎之助（同上湯長谷）右色賢直（同白鳥）北郷啓治郎（同藤原川上）伊藤芳松（平市）伊藤佐一（磐崎村西郷）

現教育者

永山忠雄（磐崎中）磯上健（磐崎小）小泉清四郎（東京學校不明）近藤千恵子（長倉小）

## 磐崎村教育委員会の構成

磐崎村教育委員會發足による公選は去る十月五日當選した四名の教委に村議會からは去る十月二十三日村議員の瀧正熙氏を選び五名の教育委が去る十一月一日午前十時から當村役場會議室で初の委員會が開き、教育民主化の一歩を踏み出しまづ役場側から大田原村長中野助役、飯塚書記、遠藤書記、石井書記が出席、大田原村長開會の挨拶に始まり、つづいて村長から教委員の紹介あつて後ち、假議長に最年高者の瀧牧太氏が議長席に付き、つづいて委員長及び副委員長の互選に入り滿場一致で松崎彌一郎氏を委員長に、副委員長は瀧牧太氏を決定し、松崎新委員長、瀧假議長と代り議長席に付き、松崎氏より初の教育委員の挨拶あつて後ち議席決定、つづいて教育長任命に入り、大田原村長から石城郡下に教育長に成る資格者二名しか無いそうで各町村共助役を來年三月まで暫定として任命する樣なもようで、中野助役を任命してはどうかと助言があつて、磐崎村助役中野松枝氏を全員一致で任命し、教育委員會書記、當會事務局書記計三名を當村役場書記を兼務で書記に決定して後ち、當委員會會議規則、傍聽人規則、公告式規則を審議、つづいて教育委員會公印を規定して後ち當村小中學校長及び教務主任等と初の顏合せを行つて十二時二十分に磐崎村教育委員會の發足がされた。尚教育長、委員長、委員議席、書記次の通り決定された。

▼教育長中野松枝
▼委員長松崎彌一郎
▼委員1瀧牧太2渡邊英男3瀧正熙（村議代表）4御代千代
▼委員會書記飯塚源造
▼事務局書記遠藤四郎、石井豊雲

## 水いらずの渡邊村

渡邊村は常磐線泉驛から約二キロ半バスにゆられて十五分、山村田部町に役場農協、小中學校、植田地區警察、渡邊派出所、郵便局並びに四五軒の商店外自轉車屋二軒が有り、國道をはさんで約四丁の細長い田舍町で町の中心より南によつた所に役場と農協一棟に机を列べてなかよく、表通りは農協、賣店、次は農協事務所形式通りの句切をつけて役場事務室一番奥は村長室當室から役場、農協、賣店まで一目で見いる明るい事務室である。

尚當村人口約二千五百余名水いらずの山農村で村長には當村釜戸諏訪神社、社司高木信定を首長に村議會議長若松俊男外十一名、農業委員長久保木安雄外十六名消防團長久保木安雄、婦人會長高木ヨシヱ諸氏等の代表者によつて小村經濟のくるしい中で明るい村作りの指導にあたつて居り、又農協組合長安藤力氏を中心に農業經濟の育成に立ち働いて居るが、小農協組ではあるが、倉庫前には當農協組のオート三輪車が見られたが水いらずの山村ほんとうにむづましそうである。

× × ×

## （活）（耳）（目）

第七回國民休育大會は去る十月十九日から二十三日まで五日間、福島縣各市で開き全國から選手並に關係者が數万人の人々は、開催地元に一週間或は十日間くらいの宿泊して休育大會が終つてから毎日新聞社福島支局主催全國選手者の反省並びに座談會についての報道が先般毎日新聞社福島地方版で見たが。

▼愛知縣選手（矢野）さんは練習からかいつて來て風呂に飛び込んだら男の方が入つていたのにびつくりしました。

▼兵庫縣選手（福田）さんも風呂入りましたところ男方が大分入つていたので、これは間違えたと思い顏を赤くして出てしまいましたが、矢張り私達は男女混浴というのはいやですね。

▼佐賀縣選手（坂井）さんは福島は溫泉地が澤山あるためでしうが男女別々にした方がよいと思いますね、

と座談會に話合つた三選手は女子である事がわかる。そこで記者は三選手と同樣に風呂は男女別々に設置すべきであると思う。反面大衆又は夫婦間の中には男女混浴の方がよいと思う方もあるでせうから、大衆風呂は男女別々にし、別に男女同伴風呂を設置したらよいと思う、尚本縣は全國でも有名な溫泉並びに鑛泉地であるから顏を赤くしたり、下を向かせたりしない樣望む。

（箱崎貞二記）

## 赤痢と疫痢

法定傳染病十一中赤痢もしくは疫痢とあり、刑犯ならば强盜殺人同樣人命を奪ふ事になる。


# 祝 平新報 再刊

磐崎村役場 村長 大田原憲太郎

磐崎村 助役 中野松枝

磐崎村議會 議長 越田和文雄

小名濱町議會 議長 長瀬彰義

玉川農業協同組合長 駒木根忠三

住吉神社 宮司 渡邊繁 小名濱町住吉

農業委員 遠藤英德 小名濱町島

鯨岡潔 湯本町

區會議員 江尻功造 湯本町

教育委員 松崎彌一郎 磐崎村長倉

教育委員 瀧牧太 磐崎村藤原

教育委員 瀧正熙 磐崎村藤原

教育委員 御代千代 磐崎村岩ケ岡

教育委員 渡邊英男 磐崎村長倉

磐崎村農業協同組合專務理事 佐川儀兵衛

磐崎村農業委員 磯上佐衛司

磐崎郵便局 局長 大平純一

渡邊村役場 村長 高木信定

渡邊村農業協同組合 組合長 安藤力

齒科醫院 佐々木三郎 泉村 電話一番

溫泉・旅館 山形屋 鈴木康平 電湯本四番

湯本驛下車 姥乃湯鑛泉 電湯本三三〇

湯本町 藝妓莊組合

農機具、種子 セメント瓦工業 織内農機店 磐崎村 電湯本一四八

湯本驛からサービスカーで十五分 白鳥鑛泉 元湯旅館 喜樂屋 電湯本二二七

湯本驛からサービスカーで十五分 白鳥鑛泉旅館 中の湯 春木屋 電湯本一二四

主食集荷配給業 磯上精米所 磐崎村西鄉